

九州大学情報統括本部 ITだより

情報統括本部の設立について

村上和彰 九州大学情報統括本部長・情報基盤研究開発センター長



今春、九州大学における学内外への情報関連サービスを一手に担う組織として「情報統括本部」が発足しました。前身は情報基盤センターおよび事務局の情報企画課で、これが情報統括本部では、情報基盤研究開発センター、情報環境整備推進室、および、情報システム部の3つの部局等から構成されます。情報統括本部のミッションは、以下のとおりです。

九大構成員の皆さまからの情報統括本部に対する質問、要望、等を一本化して受け付ける窓口、すなわち、ヘルプデスクを今春から新設致しました。何かございましたら遠慮なく、help@cc.kyushu-u.ac.jp宛にメールをください。変革し、そして、飛躍する九州大学の情報環境にご期待ください。

学内	全学的視野で学内IT(情報通信)投資および統治の一元化、効率化を図り、学生、教職員、ならびに、学内外ユーザに対して世界トップクラスの安全かつ快適な情報基盤、教育研究基盤、および、サービスを提供する。
学外	国レベルの学術情報基盤整備の一翼を担うとともに、地域の拠点大学として域内情報基盤の整備および利活用の中心的、指導的役割を遂行する。



目次

- ・ 情報統括本部の設立について
- ・ サービス案内
 - 全学共通IDの交付開始
 - 全学ソフトウェアライセンス
Microsoft Windows, Office
 - WebCTでeラーニング
- ・ NEWS
 - 新スーパーコンピュータ
システム稼働開始
- ・ 情報セキュリティ・まめ知識
 - 覚えやすいパスワードの作り方
- ・ 広報記事紹介



全学共通ID「SSO-KID」の交付開始

サイト/<http://sso.kyushu-u.ac.jp/>

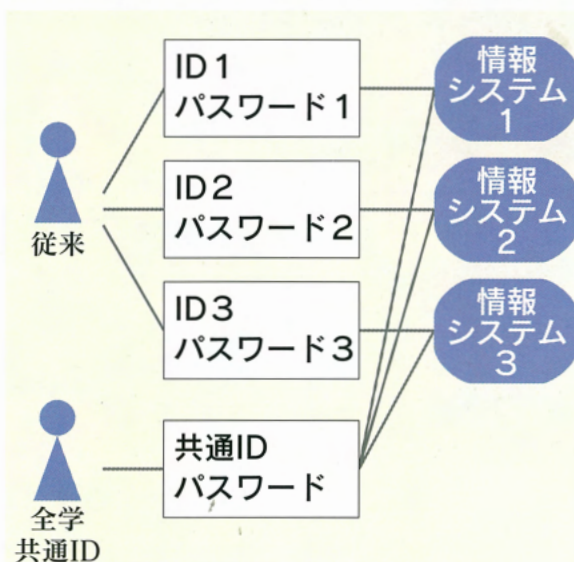
担当/全学共通認証事業室

連絡先/Tel:092-642-7234

情報統括本部では、安全・安心かつ便利な情報サービスを実現するために「全学共通認証基盤」の構築を行っており、平成19年10月よりそれをもとにした全学共通ID「SSO-KID」の交付を開始します。

全学共通認証基盤とは

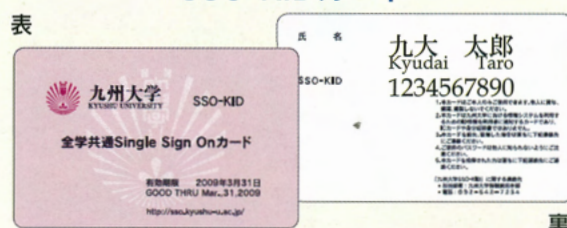
従来から、学内では情報システムごとにIDとパスワードが発行されており、利用者はそれら多数のID・パスワードの管理に苦慮していたと思います。また、システム管理者も、ID紛失やパスワード忘れへの対処にお困りかと存じます。「全学共通認証基盤」は複数のID、パスワードを一元化することでそのような状況を解決し、さらには安全かつ安心な情報システムの利用および運用を可能とするものです。学内の構成員への確実なアカウント発行、各種情報サービスへの認証手段提供を行います。



全学共通ID「SSO-KID」の交付

全学共通認証基盤整備の第1歩として、九州大学全学共通ID「SSO-KID」を本学の全教職員に交付致します。「SSO-KID」とは、「シングルサインオン(Single Sign On)」のための九州大学のID (Kyushu Univ. ID) の意味で、学内向け情報サービスで共通に使える利用者IDです。

SSO-KIDカード



注意！ SSO-KIDを受け取られたら、すぐに初期パスワードを変更してください。

SSO-KIDで利用できる情報サービス

平成19年10月現在、SSO-KIDが利用可能な学内情報サービスは下のとおりです。今後、段階的にサービスを拡充していく予定です。

- WebCT
 - ・eラーニングによる学習
- 全学ライセンス取得ソフトウェア
 - ・Microsoft, ウィルス対策ソフト
- 学内無線LAN kitenet

新しい無線LANアクセス ネットワーク kitenet

サイト/<http://www.nc.kyushu-u.ac.jp/>

担当/ネットワーク事業室

連絡先/E-mail:network@cc.kyushu-u.ac.jp

従来のモバイルIPサービスの後継として新しい無線LANアクセスネットワークkitenetの運用の準備を行っております。kitenetは、802.1XもしくはWeb認証による認証方式を採用しているので、従来のモバイルIPサービスのように特別なソフトウェアを導入する必要が無いことが特徴の一つです。また、ユーザIDごとに利用できるネットワークの選択が行なえることも、新しい特徴です。

これらの機能を使って、前述の全学共通認証基盤システムと連携して、無線LANを利用したKITEへのアクセス

や、学会などで来学された学外の方へ無線LANサービスを提供することなどが可能になります。

kitenetの利用方法などにつきましては、情報統括本部のホームページに公開してゆく予定です。



無線アクセスポイント
AT-TQ2403





全学ソフトウェアライセンス

サイト/<http://www.cc.kyushu-u.ac.jp/ms/>

担当/ヘルプデスク

連絡先/ Tel: 092-642-2201

E-mail: help@cc.kyushu-u.ac.jp

マイクロソフト社ソフトの入手

九州大学とマイクロソフト社において締結した Microsoft Campus Agreement 基本契約に基づき、九州大学の教職員・学生へ、以下のソフトウェア製品の配布を平成19年4月3日から開始しています。

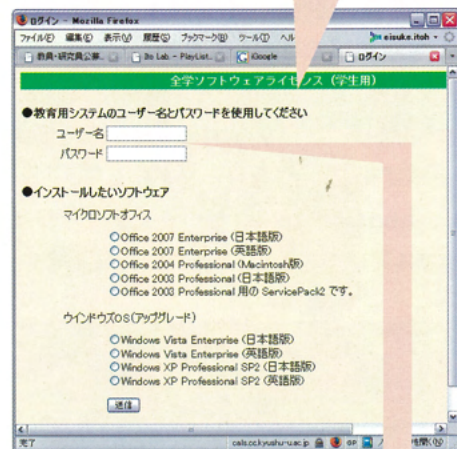
マイクロソフト・オフィス

- Office Enterprise 2007
(日本語版/ 英語版)
- Office Professional 2003
(日本語版)
- Office 2004 for Mac
(日本語版)

ウィンドウズ(アップグレードorダウングレード)

- Windows Vista Enterprise
(日本語版/ 英語版)
- Windows XP Professional SP2
(日本語版/ 英語版)

<http://www.cc.kyushu-u.ac.jp/ms/>から「インストール」をクリック後、「学生用」もしくは「教職員」を選択



教職員はSSO-KIDを、学生は学籍番号に基づくIDを入力して下さい。

WebCTでeラーニング

サイト/<http://webct.kyushu-u.ac.jp/>

担当/eラーニング支援室

連絡先/E-mail: webct-admin@cc.kyushu-u.ac.jp

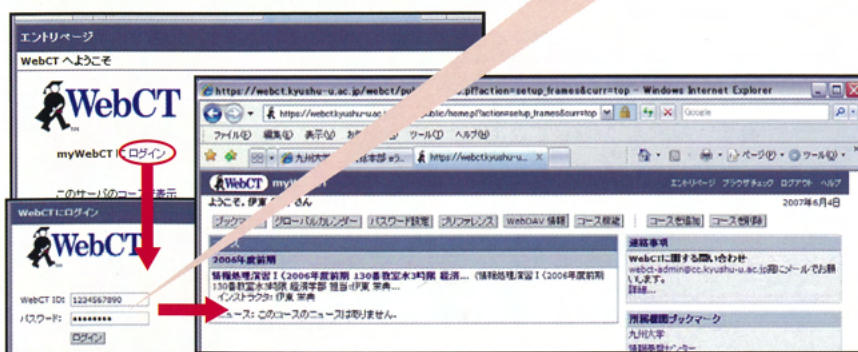
ネットワークを利用した学習システム

WebCTは、WWWベースのeラーニングシステムで、教育者、学習者ほかすべての利用者が、ネットワークに接続されたパーソナルコンピュータ上でのWWWブラウザに対する操作を介して、教育内容(教材)の作成や閲

覧を行えます。九州大学に所属する教職員、学生であればどなたでも利用できます。

現在開講されている主なコースは以下のとおりです。

<http://webct.kyushu-u.ac.jp/>でログインをクリック後、教職員はSSO-KIDを、学生は学籍番号に基づくIDを入力してください。



- ・コンピュータ入門
- ・日本語・日本文化
- ・エスペラント
- ・家族論
- ・構造材料物性学
- ・医療と社会
- ・医療倫理
- ・歯科理工学
- etc.



情報漏洩対策について

サイト/<http://www.nc.kyushu-u.ac.jp/FAQ/rouei/index.htm>

担当/ネットワーク事業室

連絡先/Tel:092-642-2309

最近、テレビや新聞を賑わせていたP2Pソフトウェア利用による情報漏洩事件が本学でも起きてしまいました。どうしてこのようなことが起きるのか、P2Pの仕組みを理解して、その防止に努めましょう。

1. P2Pの仕組みと著作権侵害問題

WinMX、Winny、Shareと呼ばれる、特定のサーバを持たずにファイルの交換ができるソフトウェアは、その交換に用いられている技術の名称をとって総称してP2Pソフトウェア(あるいは単にP2P)と呼ばれます。P2Pは、特定のサーバを持たない代わりに参加している全コンピュータがP2P上で交換されているファイルを一次的に保管し、他のコンピュータの交換の助けをし、全体として高速なファイル交換を行なう仕組みになっているのが特徴的です。そのため、自分が著作権を侵害したファイルの交換を行なわなくても、他人のファイル交換の手助けを行なうことによって、知らないうち著作権侵害をしたファイルを扱ってしまうことがあります。これが間接的に著作権侵害を助長したことになり、過去、九州大学も著作権侵害で何度か警告を受けたことがあります。このような経緯で、九州大学でのP2Pソフトの利用は全面的に禁止されています。

2. P2Pによる情報漏洩

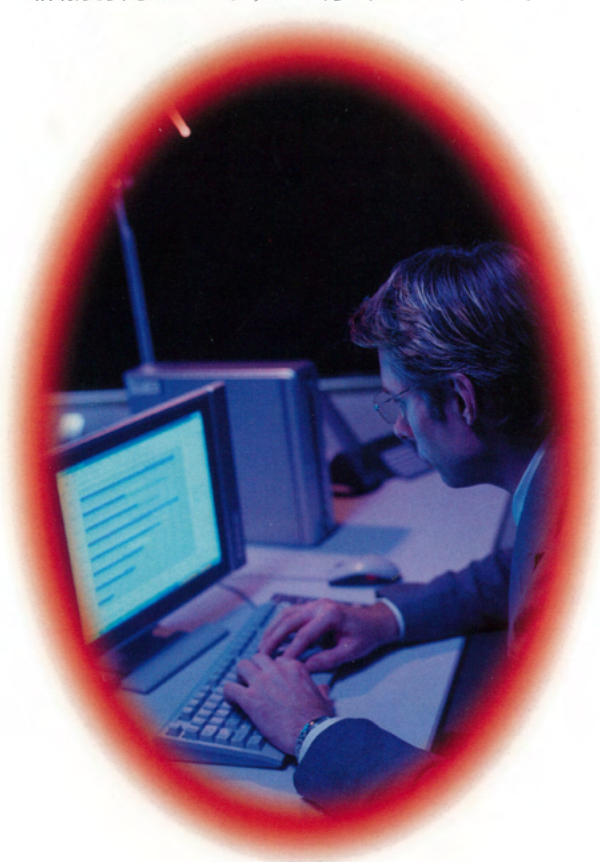
そこで、自宅であればP2Pの利用は禁止されていないので、自宅のコンピュータでP2Pを利用されている方はいらっしゃると思います。しかし、最近では、P2Pのウイルスがあり、このウイルスは感染したコンピュータのメールや文書などすべてをアーカイブファイルにして、P2Pでファイル交換してしまうというもので、九州大学でもこのウイルスによって、情報漏洩が起きてしまいました。P2Pの各コンピュータがファイル交換の手助けのために一次的に蓄積したファイルを、一斉に消去する手段がないため、このようにして情報漏洩が一旦起きるとその被害は非常に深刻になります。

3. 情報漏洩を簡単に防ぐ方法

情報漏洩を技術的に防ぐ適切な手段は今のところありません。しかし、簡単に防ぐ方法はあります。それは、つぎの2点に気をつけることです。

- 1)九州大学のセキュリティポリシーに従って、第三者に渡すべきではない情報は学外に持ち出さないこと(ノートパソコンに入れて持ち歩かないこと)を厳守する。
- 2)P2Pは自宅でも使用しないこと。

情報統括本部が情報漏洩対策マニュアルを作成し、Web(<http://www.nc.kyushu-u.ac.jp/FAQ/rouei/index.htm>)で情報提供をしていますので、参考にして下さい。





新スーパーコンピュータシステム群、稼働開始

平成19年6月より新しいスーパーコンピュータシステムと高性能アプリケーションサーバが稼働を開始しました。従来、本センターではスーパーコンピュータVPP5000及びスカラー並列サーバGS320を運用してきましたが、導入後6年を経過して、最先端の科学技術計算の需要を満たすのが難しくなっておりました。今回導

入された計算機群は、以下に示すとおり最新の計算機技術を採用した、大規模かつ高性能のシステムとなっており、平成17年に導入した高性能演算サーバと合わせて、全国共同利用システムとしては国内でも最大級の演算性能を提供することが可能となっております。

ラインナップ

スーパーコンピュータ バックエンドサーバA
FUJITSU PRIMEQUEST 580

総プロセッサコア数**2048コア**(Intel Itanium2 1.6GHz)

総主記憶容量**4TB**



スーパーコンピュータ バックエンドサーバB
FUJITSU PRIMERGY RX200S3

総プロセッサコア数**1536コア**(Intel Xeon 3.06GHz)

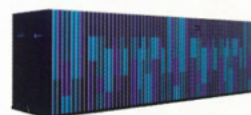
総主記憶容量**3TB**



高性能アプリケーションサーバ
HITACHI SR11000

総プロセッサコア数**384コア**(IBM Power5+ 2.3GHz/1.9GHz)

総主記憶容量**2.9TB**



高性能演算サーバ(平成17年3月導入)
IBM eServer p5 model 595

総プロセッサコア数**416コア**(IBM Power5 1.9GHz)

総主記憶容量**1.9TB**



新価格

また、今回のシステム導入を機に、利用者の皆様にお支払いいただいていた「利用負担金」についても見直しました。まず、従来より「年度末まで金額が確定しないため不安で使いにくい」とのご意見をいただいていた従量制課金を全廃し、定額制課金のみでの運用としております。さらに、定額制課金の金額につきましても、従来の水

準から大幅に引き下げております。

年間の利用負担金の例を以下に示します。詳細は研究用計算機システムのページ

<http://www.cc.kyushu-u.ac.jp/scp/> の「利用負担金表」を参照してください。

区分	eServer p5	SR11000	PRIMEQUEST	PRIMERGY
学生用			16コアまで無料	
共有		4コアまで10,000円 16コアまで15,000円 等	32コアまで10,000円 64コアまで20,000円 等	128コアまで10,000円
占有	8コア 60,000円 16コア120,000円 等		8コア 60,000円 16コア120,000円 等	64コア 80,000円 128コア160,000円 等





覚えやすく、第三者に見破られにくいパスワードの作り方

ユーザIDやパスワードは第三者に知られると、自分の個人情報やデータが盗み見られたり変更、削除されたりするだけでなく、迷惑メールやWebサイトへの不正書き込みに悪用されてしまいます。自分の氏名や生年月日等、類推が簡単なパスワードは避けるべきです。

そこで、先日情報統括本部より配布した「情報セキュリティ安全対策」では、自分が覚えやすい文章を使ってパスワードを作る、という方法を紹介しています。例えば「母の名前は花子です」をローマ字にして、子音だけを取り出し、「hhnnmhhnkds」という文字列を作ります。これだけでは簡単すぎるので、適当に特殊記号や数字を

追加して、「#hhnnmhhnkds%9」とすると、パスワードを総当たりで調べるタイプの不正アクセスでも簡単には見破られなくなります。

他に、キーボードの日本語表記を使う方法も紹介しています。例えば、さきほどの「母の名前は花子です」を、入力モードを半角英数にしたままでキーボードの日本語表記通りに入力すると、「ffkuj5ffubw@r」となり、英数字以外の特記号を入れやすくなります。

詳細は、お配りしている「情報セキュリティ安全対策」をご覧ください。



広報記事紹介

A0判カラープリンタ出力サービスのご紹介

高木 早智子(九州大学情報統括本部)

情報基盤研究開発センターで運用しているA0判カラープリンタの利用法が紹介されています。

連続状態離散化チャネル結合法(CDCC法)による原子核反応解析コード

井芹 康統(千葉経済大学短期大学部)等

本センターの研究用計算機で開発、公開されているCDCC法(Continuum-Discretized Coupled Channels、離散化連続状態チャネル結合法)による不安定核の3体系反応計算プログラムの利用法です。

講義にスーパーコンピュータをとりいれてみませんか？

南里 豪志(九州大学情報基盤研究開発センター)

無料で利用可能な講義用アカウントを利用して、プログラミング演習等の講義にスーパーコンピュータを取り入れるための基礎知識が紹介されています。

九州大学全学共通認証基盤と全学共通ID「SSO-KID」の紹介

伊東 栄典(九州大学情報基盤研究開発センター)

本紙でも紹介したSSO-KIDについて、基本となっている考え方や、詳細な説明が書かれています。

連立1次方程式の直接解法とソフトウェア

渡部 善隆(九州大学情報基盤研究開発センター)

科学技術計算で頻繁に出てくる連立1次方程式について、直接解法で解く方法と情報基盤研究開発センターの研究用計算機で利用可能なソフトウェアが紹介されています。

分子科学計算推進室からのお便り

南部 伸孝(九州大学情報基盤研究開発センター)

情報基盤研究開発センターで分子科学計算に関するサポートを行っている推進室の最近の活動が報告されています。

広報記事は以下のWebページで閲覧できます。

<http://www.cc.kyushu-u.ac.jp/publish/kohobkno/index.html>

